



特許第1委員会

◆ ミッション

- 出願～権利化までについてグローバル視点で制度のあるべき姿、実務における諸問題の検討を行い、会員企業に共有/各国庁に提言する

◆ 活動方針

- 有益な情報を会員企業に提供できるよう、アウトプットに執着する
- 委員会の枠を超えて活動することで視野を広くし、様々な観点から調査研究を行う

◆ 委員会構成 (敬称略)

担当理事：池村(味の素) 委員数48名

正副委員長会：
委員長：横山(ヤマハ)

第1小委員会:10名
小委員長:太田(富士通)

第2小委員会:9名
小委員長:宮永(日産自動車)

第3小委員会:13名
小委員長:中島(NTT)

第4小委員会:8名
小委員長:佐伯(ロート製薬)

第5小委員会:7名
小委員長:山崎(KDDI)





特許第1委員会 第1小委員会

◆ **テーマ名**：特許制度ハーモナイゼーションに向けた調査・研究

◆ **狙い**

文献サーチの各国比較から、権利化プロセスにおけるハーモナイゼーションの観点を提言する

◆ **内容の概略**

各国引用文献の不統一により、各国の権利化プロセスの負担や権利の有効性という課題がある。引例拒絶のベースとなる文献サーチに関連する試行プログラム（段階的な調和）として、日米協働調査やPCT協働調査が施行されている。そこで、試行プログラム（サーチ結果と見解を庁間で共有）を通じた実体ハーモの調査・研究を行い、試行プログラムの長所・短所をJIPA会員向けに発信する。また、特許庁のサーチ結果の採用・不採用×技術分野等から特許庁の審査の質を調査し、特許庁意見交換会等を通じてユーザーの意見を発信する。

◆ **アウトプット&スケジュール**

特許庁意見交換会での提言、知財管理誌へ投稿





特許第1委員会 第2小委員会

◆ **テーマ名**：記載要件に関する調査・研究

◆ **狙い**

記載要件に関連する諸問題を検討し意見発信する

◆ **内容の概略**

明細書の記載量に関して、日本の出願人は、在外者（特に欧州の在外者）より記載量が多いとの予備研究がある。明細書の記載量が多いほど記載要件違反の指摘を受けにくいと思われるが、必要以上に技術の詳細を公開している可能性がある。そこで、技術分野を特定した上で、記載要件違反の指摘と明細書の記載量を日本の出願人と在外者とで比較し、明細書でどこまで技術を記載するのがよいかの目安をJIPA会員向けに発信する。

◆ **アウトプット&スケジュール**

知財管理誌へ投稿





特許第1委員会 第3小委員会

◆ **テーマ名**：進歩性に関する調査・研究

◆ **狙い**

進歩性に関連する諸問題を検討し意見発信する

◆ **内容の概略**

近年、特許査定率が上昇している。特許庁は「量から質への転換が着実に進んでいる」との認識だが、産業界等からは発明の質がよくなったわけではなく、審査の質に問題があるのでは、との指摘がある。そこで、近時の知財高裁判決（査定系）の分析を行うのと並行して、知財業界以外の方（研究開発者）へのヒアリング等を行い、進歩性はどのくらいのレベルで認められるかなどを様々な切口で検討する。

◆ **アウトプット&スケジュール**

知財管理誌へ投稿、特許庁意見交換会での提言





特許第1委員会 第4小委員会

◆ **テーマ名**：特許出願における諸問題の調査・研究

◆ **狙い**

諸外国の特許制度について検討し、ユーザにとって役に立つ日本の特許制度・運用を意見発信する

◆ **内容の概略**

各国の特許制度は様々な違いがある。各制度には、それぞれメリット/デメリットがあると思うので、会員企業へのアンケートを通じて、日本に導入して欲しい諸外国の制度、日本の制度で不要と思われる制度の検討を行い、JIPA会員向けに発信する。また、日本の特許制度・運用に関して、会員企業が多く導入を希望する制度/削除を希望する制度については、特許庁との意見交換会を通じて特許庁にも情報提供する。

◆ **アウトプット&スケジュール**

知財管理誌へ投稿、特許庁意見交換会での提言





特許第1委員会 第5小委員会

◆ **テーマ名**：審査過程における諸問題の調査・研究

◆ **狙い**

グローバルハーモを見据えた、ユーザにとって最適な審査制度・手続を検討し、実務家への情報提供、制度改善に向けた提言を行う

◆ **内容の概略**

PCT出願の活用方法として、ISRの結果を見てから各国への移行を判断することがある。しかしながら、国際調査機関がJPOであっても、JP審査の段階でISRにあげられていない文献により新規性・進歩性違反を指摘されることがあり、国際段階でのサーチの質に問題があるのでは、との課題がある。そこで、ISRの調査結果とJP審査時の引例の乖離を調査し、その乖離を減らす方法がないかを検討する。

◆ **アウトプット&スケジュール**

知財管理誌へ投稿、特許庁意見交換会での提言





特許第1委員会 その他の活動

◆ 特許庁関係

- 日米及び日欧間の進歩性等の判断のかい離事例に関する調査研究
 - 委員派遣 (2名)
- 各国における権利回復等の救済措置の基準及び運用実態に関する調査研究
 - 委員派遣 (1名)
- 審査基準室・品質管理室との意見交換会 (9月11日, 来春)
 - 研究内容についてディスカッション予定
- 産業構造審議会知的財産分科会特許制度小委員会審査基準専門委員会ワーキンググループ (12月)
 - 委員派遣 (1名)

◆ 弁理士会

- 意見交換会 (11月14日)

◆ 国際政策PJ

- 委員派遣 (1名)



～世界から期待され、世界をリードするJIPA～